

・滞在を終えて

シテでの入居の間、私の専攻する石彫との関わりにおいて石を主体として作られた町に住み、季節の一周期を体験する事が出来たのは自分にとって大変有意義なことであった。つまりそれを極当たり前として生活している人々の性質、行動、必需品などを実感を伴いながら過ごすことにより、社会構造や経済、文化について考察、推測し、さらに歴史を振り返る事が出来たと感じたからだ。

1年という期間は上記の事を浮き彫りにしてゆくには到底期間的には短い、一日一日を集中して感じる事が出来た様に思える。石の造形物はこちらでは日常に近いものなので、美術に関しての見方も日本のそれとは何か異なる要素が孕まれているのを感じ、それをまだきちんと自分の中に把握しきれていないのが心もとないが、それは今後の自身の行動と制作活動において掴んでゆければ良いと思っている。

・シテの生活

私の部屋は本館とは棟の違う別館にあり、中庭に面している為とても静かであった。本館に比べると入居者数自体少なく、又同じフロアの入居者も格段に少ない為他の部屋の作家ともなかなか会える機会が少ないのだが、シテで開催されている1ヶ月に一度の交流会や週に1度のフランス語の授業、シテが持つギャラリーでのベルニサージュへの参加、また部屋で時々個人的に開催されるアトリ工展などに足を運ぶ事により様々な職種の作家に会う事も出来、さらに自分から話し掛けてゆけばかなり交流は臨めるものと思われる。他国の人とは価値基準が異なるため時には問題が出る事も避け難いが、それは同じアーティストとして、同じ施設に滞在している者としてお互い気を配りあっていると感じられる事の方が多かった。

・制作

部屋ではあまり大がかりな仕事は出来ないため、自分の中にある表現性を深く探りながらここで出来る事を素材も含めて根本から見つめなおせる切っ掛けにもなったことは大きな喜びとなっている。とはいえ、自分の持っている技術において作品制作や様々な人との交流を考え、制作場所を外に求め滞在中に各国の彫刻公開制作に応募したところ、2度程参加できるチャンスがあり、またシテでの滞在終了予定後も参加する事が決まった。

日本から参加すると考えた場合、移動時間・諸経費の問題などで参加することは容易ではないと思う。また日本では一ヶ月近い制作が殆どなのに対し、こちらでは1週間から2週間位の制作が一般的なので、日本からの移動を考えただけでも、パリという拠点の便利さに相当違いを感じた事は確かである。

・滞在中に関して

シテの滞在中で大変だったのは、何ごとを要求するにも書面で行わなくては行けなかった事でありまたそれはシテに限らずヨーロッパ内どこでもそれが当たり前になっているので自分が何を求めているのかを簡潔に相手に伝えられる語学力、国語力、さらには自分の立場の意識が必要である。こちらはとにかく自分が何をしたいのか、何が出来るのかということ常々求められ、又自分からそれを出さないとわざわざ聞いてくる人もいないので、どこになにを、どのようにしたいのかという情報を常に入手し動く努力が必要であると感じた。

また、日本よりも美術家に対して、外国の人間に対して寛容さは持っていると思われるが、日本において4、5年かかって探し出せたような関係性を1年の滞在中で行おうというのは、かなりの忍耐と努力、さらには言語、人間関係、システムの違いの把握の違いを含め永年の積み重ねが必要なのだと感じる。その為、ここでの滞在中は先々を考えた上での足掛かりを見つけれられる程度と考えた方が賢明であろうと思う。

・希望する人に向けて

こちらに暮らすからといって、こちらにあわせる必要もないのだが、フランスは特に他の国にくらべて自分達のやり方を押し付ける感じがなきにしもあらずの様に感じる。そのためシステム自体を受け入れる余裕もないと何も身動きがとれなくなっていくという感じもする。かといってこびる必要もないし、かぶれる必要もないのだが、日本との、人種的、社会規範的差異を少しでも感じられるように気を配るとよいと思う。

1年間の滞在は旅行者でもなく住人でもないなのでその期間をどのように過ごすかは全く個人の予定で良いと思うし、予定してきても全て思い通りに動かないのも事実である。

ただ、何をやるにせよ、何もしないにせよ、この滞在によって何を感じたかが今後日本に帰国したあとにも響いてくるのには違いないと感じる。また何もなかったと感じて日本に戻っても私は良いと思っている。何が、その人にとって必要だったのかは、その人にしか分からないし、その人が判断して行くしかないからである。

こちらの人はず「生きる」と言う事を本当に楽しんでいると思う。そこには様々な歴史や風土の背景があるに違いないが、その精神は私にとって様々な課題を残したと言う事は確かである。

2001年9月25日

長澤裕子/NAGASAWA Yuko

2000年4月11日入居

2001年5月4日退去

2001年7月11日帰国